

令和7年度 上京区地域保健推進協議会 概要

日 時 令和7年9月18日（木）午後2時から午後3時20分
場 所 上京区総合庁舎 4階中会議室
出席委員 任委員、金光委員、松尾委員、佐藤委員、小林委員、藤本委員、
小川委員、梶山委員、海野委員、井筒委員、立原委員、関委員、
湯浅委員、池田委員、田中委員
傍聴人 2名

<開会挨拶> 西尾保健センター長

<議題（1）上京保健センター事業について>

- ・健康づくり事業・感染症について（健康長寿推進課 荒木担当課長）
- ・精神保健福祉・難病保健事業について（障害保健福祉課 西村課長）
- ・母子保健福祉事業について（子どもはぐくみ室 浅堀課長）

<議題（2）意見交換>

井筒委員：

民生児童委員は、赤ちゃんからお年寄りまで全体的な相談を受けているが、やはりお年寄りの相談が大半である。児童委員としても積極的に赤ちゃんお祝い訪問等の事業に加わることをきっかけに、各家庭に地域の実情を伝えたり、相談を受ける機会を増やし、長く続く伴走型支援に繋がっていきたいと思っている。ぜひ訪問機会がもっと増えてほしい。

浅堀課長：

赤ちゃんお祝い訪問については、今年度から訪問受付を郵送に加えてスマートフォンからも気軽に申し込んでいただけるように変更し、出来るだけ訪問機会を増やして子育て支援をしていけるように努めているところである。

西尾保健センター長：

保健師や保育士のプロの目だけでは届かない部分もあるので、民生児童委員も含めて、身近な方からの息の長い支援を、関係機関と住民、地域との繋がりの中で御家庭を包むように進められればよいと思う。

湯浅委員：

老人福祉員として、日頃から単身高齢者の安否確認等をしている。健康寿命

の延伸にかかる上京区の状況で、毎年要支援、要介護の認定率が全市的に高いことを不思議に感じていたが、思うに一生懸命掘り起し、相談をされていることで早く見つけられ、専門機関に繋げることができるので結果的に高くなっているのではないかと考えている。老人福祉員だけの活躍ではないが、上京区として自信を持ってもいいのではないかなと思う。

藤本委員：

そのとおりだと思う。早期発見して専門機関に繋がれており、リスクヘッジができているということだと思う。

湯浅委員：

老人福祉員の代表者会議の時に誇れる資料として皆さんにお伝えしたいと思う。

荒木担当課長：

高齢者の中で要支援1というような介護レベルが低い方が多いのは、お守りのために先に調査を受けようと思って受けていただいた方が多いと思っている。

立原委員：

要支援や要介護をお願いするのは勇気のいることだが、地域の方から声がけいただけると足を向けやすい。上京区は気軽に申請しやすいのではないかなと思う。

湯浅委員：

老人福祉委員は定年も無いので長く続けている。対象者がどんどん下から上がってこられるので、追いつかなくなっているジレンマもある。

田中委員：

体操などの面でサポートさせていただいているが、専門家ではない。専門家のインストラクターや健康運動指導士などと呼んで定期的にやらないと体力の維持どころか向上には繋がらないと感じている。口腔ケアや認知症ケア、朗読や音読についてプログラム作ってやっているが、健康効果が出ているのかはわからない。また、会議室の予約方法については、毎月初めの抽選ではなく、もう少し長期的に日時を確定させたい。その二つを疑問に現在活動している。

荒木担当課長：

サポーターの継続的な取り組みに感謝している。いろんな場の設定やボランティアの支えがあり実現できており、健康づくりに本当に役立っている。区役所の会議室予約については御不便をおかけしているが、御意見を伝えておく。また、講師で呼んでいただければ保健師が入らせていただいたりもするので遠慮なく言ってほしい。